

平成30年度「全国学力・学習状況調査」における

大原野小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について考察しております。保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をおもちいただき、教育活動にご協力いただくため、分析結果をお知らせします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 「国語 A・算数 A・理科」 | 主として「活用」に関する問題 「国語 B・算数 B・理科」 |
|---|---|
| ・身につけておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容。 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能など。 | ・知識、技能等を実生活の様々な場面に活用する力。 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力など。 |

(2) 児童生徒質問紙調査

| 児童生徒質問紙調査 |
|------------------------------|
| ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 |

2 教科学習状況調査結果

(1) 総合結果

国語 A・B、算数 A については全国平均を下回りましたが、算数 B、理科については全国平均を上回りました。特に理科ではほとんどの問題が無解答率 0 % でした。このことから、理科については努力して学習状況調査に取り組もうとしている姿勢が表れています。しかし、国語 B や算数 A では無解答率が全国平均を上回りました。

(2) 国語科について

①課題のある問題

- ・計画的に話し合うために、司会の役割について捉える
- ・漢字を文の中で正しく使う「管理」

- ・話し合いの参加者として、質問の意図を捉える
- ・推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む

②全国平均を上回った問題

- ・図書館への行き方の説明として適切なものを選ぶ
- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く
- ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う

③考察

漢字を文章の中で正しく使う問題が全国平均を下回りました。「同音異義語を適切に使う」ことに課題がみられます。漢字の意味を考え、適切に使うことができるよう日頃から辞書を使って調べる習慣をつけ、既習漢字を進んで使うことが大切だと考えます。

学校では、友達の前で発表する機会を多く持つようにしています。その成果もあり、話すことについての正答率は高かったです。しかし、解答の仕方が記述式の場合、無解答率が高かったり、正答率が低かったりする傾向がありました。今後、自分の考えや読み取ったことを書きまとめる活動を積極的に取り入れたり、読書量を増やすための取組を進めたりしたいと考えています。

(3) 算数科について

①課題のある問題

- ・円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ
- ・3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く
- ・空間の中にあるものの位置を「縦」「横」「高さ」の三要素を使って正しく書く
- ・示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる
- ・分度器の目盛りを読み、180度よりも大きい角の大きさを求める
- ・1に当たる大きさを求める数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる

②全国平均を上回った問題

- ・「4, 6, 8, 10, 12, 14, 16」の7つの数の和が、真ん中の10の7倍になっていることを、例文と同じ表現方法を適用し記述できる
- ・同じ面積㊦と㊩の二つのシートの混み具合について正しいものを選ぶ
- ・4色の折り紙を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の輪の色を選ぶ
- ・メモ1とメモ2は、それぞれグラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを記述する
- ・「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す
- ・合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ

③考察

数量や図形についての知識・理解・技能、数学的な考え方について課題が見られました。示された考えや問題場面を解釈する力、自分の考えを説明する力を身に付けることが大切だと考えます。小数の除法の計算など基本

となる計算の仕方をしっかり身に付け、日常生活の様々な場面で活用できるよう、ていねいに学習を進めていきます。授業では、答えを導き出した過程を大切に、式や図をもとに根拠を明らかにしながら説明する機会を今後も積極的に取り入れます。分度器の扱いなど、既習内容が定着するような学習もしていきたいと考えます。

(4) 理科について

①課題のある問題

- ・回路を流れる電流の向きと大きさについて、正しい内容を選ぶ
- ・ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ
- ・野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ
- ・一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。

②全国平均を上回った問題

- ・雲の様子や川の水位の様子から、上流側の天気と下流側の水位の関係について考えられることを選ぶ
- ・流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ
- ・人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ
- ・食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ

③考察

3年前の調査結果と比べ今回は全国平均を上回りました。本校では、一人一人が実感をともなつて学ぶ機会となるよう、実験器具を整備し体験を重視した授業に取り組んできました。それが理科の学習への関心を高めたり、正しい理解につながったりしたのだと考えます。

学習したことが様々なところで活かせるように、観察・実験の結果を基に考察・判断した理由を説明する活動を大切にしていきます。

3 児童生徒質問紙調査結果

① 肯定する回答が少なかったり、全国平均よりも低かったりする質問

- ・自分には、よいところがあると思いますか
- ・将来の夢や目標を持っていますか
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか
- ・普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか
- ・普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか
- ・放課後や週末、何をして過ごすことが多いですか
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか

- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
- ・地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか

② 考察

- ・文部科学省が公表した資料では、放課後や週末に、テレビやビデオ・DVDを観たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている児童が多いとされています。携帯型ゲームやSNS、インターネットに使う時間が増え、それと共に様々な問題が起こっています。本校でも約91%の児童がテレビやビデオ・DVDを観たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしていると回答しています。学校ではスマートフォン・ケータイ安全教室を実施し、正しい利用について学習しますが、ご家庭でも携帯電話やスマートフォンの利用についてしっかり話し合っていいただければと思います。
- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」ではプラス評価（している、どちらかといえばしている）が66.6%で、しかも、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」ではプラス評価が18%も全国平均を上回っています。しかし、実際どのくらいの時間家庭学習をしているかについては、1日の授業以外の勉強時間が1時間に満たない児童が44%もいます。児童の家庭学習は必要であるという意識は大変高いので、内容について今後も検討していきたいと思います。
- ・全国平均より「当てはまる」が上回っているものが「いじめは、どんなことがあってもいけないと思います」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」でした。本校では、「特別の教科道徳」を研究し、日頃からキラキラ見つけなどを通して友達のことを考えたり、規範意識について考えたりしています。また、児童会を中心にした「つながり」を大切にする取組や地域の方と関わりながら学ぶ取組も継続しています。このような取り組みの成果が結果として表れているのだと考えます。今後も、児童の健やかな成長のため、ご家庭や地域と協力しながら取り組んでいきたいと思います。
- ・「学校のきまりを守っていますか」では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた数値は全国平均を上回りましたが、「当てはまる」だけを見ると全国平均を大幅に下回りました。きまりを守っている様子が見られるのに、自信を持って「当てはまる」と答えられないことが気になります。「自ら律する力」を高めるためにも、教職員は「大原野小学校の約束」の指導を徹底しています。児童会が決めた「今月の目標」について、学級で、毎週末に振り返っています。児童は学校生活の様々な場面できまりを守ることを意識しています。児童が自信を持って「守っている」と答えられるように、教職員をはじめ、周りの大人からの励ましの言葉かけを増やし、児童の自己肯定感が高まるようにしていきたいと思います。
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」などは「当てはまる」の数値が全国平均を下回りました。企画された地域の行事には行くけれど、主体的に参加したり、社会貢献したりすることには消極的な面が見られます。また、本校では放課後まなび教室や交通安全教室、米作りなど地域の方にお世話になる活動にたくさん取り組んでいます。児童が地域の方から学んでいることを意識できるように教職員からも働きかけたいと思います。地域や社会の活動に主体的に参加しようとする気持ちと行動力については今後様々な機会を通し、育てていく必要があると考えます。